

## 令和5年度「みんなでつくろう！健康とくしま県民会議」議事概要

- 1 日 時 令和6年3月18日（月）14：00～15：40
- 2 場 所 徳島県立工業技術センター 講堂
- 3 出席者 委員 35名（うちWEB参加20名）  
事務局 8名

### 【会議次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 題
  - (1) 役員選出
  - (2) 「健康とくしま運動」について
  - (3) 各部会の取組
    - ・運動と健康づくり専門部会
    - ・野菜摂取量アップ専門部会
  - (4) 「健康徳島21」の改正について
  - (5) 「みんなでつくろう1健康とくしま県民会議」の見直しについて
  - (6) その他
- 4 閉 会

### 【議事概要】

#### 議題（1）役員選出

会長・副会長の選出

#### 議題（2）「健康とくしま運動」について

##### （3）各部会の取組

- ・運動と健康づくり専門部会
- ・野菜摂取量アップ専門部会

##### （事務局）

事務局から資料により説明

##### （会長）

事務局より「健康とくしま運動」、「運動と健康づくり部会」「野菜摂取量アップ専門部会」各部会の今までの取組について説明があった。

野菜摂取量が310gからなかなか増えないようだが、ミニトマトを2～3個食べたら40g増えるので、そういった点からも野菜摂取量アップにつなげられたらよいと思う。

(会長)

スポーツサポーター育成活用促進事業について伺いたい。

(事務局)

まず、総合型地域スポーツクラブがスポーツ活動の場づくりになる。場づくりには、指導・関係するスタッフが必要になる。それぞれの目的等理解が深い人材がいればよいということで、講座を開き、指導者等の養成をし、現在944名ほどが活動していただいている。

(会長)

本日お集まりの各団体の皆様が連携して、こういった健康づくりの取り組みを進められたことで、県民の歩行数、野菜摂取量の増加に繋がっていった。

今後も継続して健康づくりの取り組みを進めていけたらと考える。

続いて、委任の皆様からすでに取り組みでおられる事例、今後に向けての提案などをお聞かせいただきたい。まず、徳島県ウォーキング協会からお願いしたい。

(委員)

徳島県ウォーキング協会より取組について説明。

昭和57年、全国に先駆け、七番目に、検討会を発足。平成22年にNPO法人を取得。本年42周年。当初会員は約800名。現在は300名程度。高齢化が進んでいる。

事業を開催しても参加者の確保が非常に難しい状況になっている。ウォーキングは非常に盛んになっているが組織的にウォーキングするよりも個人的にしている人が増えている。

事業としての一例として、ワンデーウォーク。もう少し長く歩きたい人にチャレンジウォーク、ウォーキングステーション、ブルーライトウォーキング など。

テクとくアプリなどでも情報を公開し、参加者を募集したりもしている。ぜひ、みなさま参加いただきたい。とくに働き盛り世代の人に参加いただきたい。

(会長)

会員数が減少しているということでしたが、コロナも終息してきているので、参加者が増えていくことを期待している。

続いて、徳島県栄養士会の取組についてお願いしたい。

(委員)

徳島県栄養士会より、県民に対する健康への取り組みについて説明。

子供から高齢者まで切れ目のない栄養改善を、をスローガンに、保健、医療、福祉や教育などの分野において、科学的な食と栄養の指導を基本に、県民一人一人の命と健康を守る質の高い食生活に関する事業を通し、徳島県民の公衆衛生の向上を目指している。そして、食と健康に関する研修会を開催し、管理栄養士・栄養士の専門性を高めたり、栄養指導等のスキルを身につけていくように常日頃研鑽している。また、野菜摂取量アップ専門部会の部会員でもあり、カット野菜、冷凍野菜、あるいは電子レンジ等の活用による簡単レシピの普及にも努めている。正しい食情報の発信、簡単野菜料理の普及、家庭以外でも野菜が摂れる環境づくり、働き盛り主体をター

ゲットとした取り組み。県民に向けて、どういうふうになれば、あるいは工夫すれば野菜がとれ、元気に日々過ごすことができるということを目標に取り組んでいきたいと思っている。

(会長)

食生活を重視され、栄養士、管理栄養士の専門的な立場からいろいろ活動をされている。これからも頑張ってください。

続いて、健康診断健診受診等について協会けんぽの方からお願いしたい

(委員)

保健者努力重点支援プロジェクトについて説明。

このプロジェクトは、全国で三支部（佐賀、北海道、徳島）をまず先行的に、医療費をレセプトからとりだし分析をし、事業を行った上で効果が出る事業については、全国に展開していこうという事業。

課題1：徳島支部の特徴。肺がんの医療費が非常に高く、喫煙習慣のある者の割合が高い。COPDによる死亡率が全国上位。喫煙率自体は、全国平均より徳島支部は低い（被用者保険のみ）。ただ、厚労省データを見ると、全国の喫煙者は減っているが、徳島県の喫煙者は増えているため、これを分析。喫煙習慣のある方へのアプローチを変更。

課題2、課題3：糖尿病、高血圧の外来医療費が高く、運動習慣、飲酒習慣の割合が全国平均よりも高い。特に40歳から急激に上昇。若い方に対するアプローチが重要。まだ表に出てきていない方々に対し、いろんなアプローチをかけていく。

課題5：時間外受診が徳島は大都市並みに多い。四国の中その他三県に比べて2倍多い。受診の内容としては、アレルギー性鼻炎など比較的軽症と思われる疾病が上位を占めている。年齢別で見ると、0から4歳が突出しているのが通常だが、全年齢で幅広く時間外受診が見られる。共働き世帯が多く、仕事が終わってから、受診にかかると考えられている。上手な医療のかかり方として、かかりつけ医・かかりつけ薬局を持つ話から、時間内受診、ジェネリック等広報予定。

協会けんぽだけでなく、他の保険者が実施している健診を毎年受診してもらうことで、より精度の高いデータが分析でき、重症化予防などより効果的な事業を推進することができる。必ず毎年一回、一人でも多くの方が健診を受けるように声かけをお願いしたい。

(会長)

県民会議の皆さんお一人お一人が地域や職場において、リーダーとなっていただき、主体的に健康づくり運動の輪を広げていくことが、何より重要。「バランスの取れた食生活」、「運動習慣」、「健診受診」など、いろんな側面から私たちが旗振り役となって、これからも県民の皆さんの健康づくりを進めていきたい。

(4)「健康徳島21」の改正について

(事務局)

事務局から資料により説明

(会長)

改定される「健康徳島21」に基づき、さらに取組みを進めていくということなので、我々としても、現状や課題を共有し、取組みを進めていかなければならない。ご協力いただきたい。

(5)「みんなでつくろう！健康とくしま県民会議」の見直しについて

(事務局)

事務局から資料により説明

(会長)

「会議」としての形は、今回をもって終了だが、糖尿病をはじめとする、生活習慣病対策はずっと取り組んでいかなければいけない。県民会議の中で決定してきた、これまでもいろいろ活動し、取り組んできた、「健康とくしま応援団」、「ウォーキング事業」、「野菜摂取の取組」などは、今後も継続していくということなので、各団体においても、今後とも健康とくしま運動を継続していただきたい。

(委員)

ウォーキング協会は県民会議のもとでウォーキングステーションを実施。県民会議が廃止となった場合、何の主体のもとでウォーキングステーションを運営していくのか。徳島県主催だけでよいか？

(事務局)

「県民会議」という形は、今年度末（令和5年度末）で廃止とさせていただければと説明したが、各事業については、当然、これからも継続していくよう考えている。

実施主体というの、もちろん徳島県としても、関係団体の皆様と、引き続き連携をとっていききたいと考えており、個々の事業を進める上で、どのような形で行っていくか、相談させていただければと思う。各事業について、定着しているので、今後とも続けていきたい。皆様のご協力をいただければと考えている。

(事務局)

みんなでつくろう！健康とくしま県民会議に、50以上の団体様にこれまでも協力してきていただいた。それぞれの事業についても情報共有しながらうまく活用もしてきていただいた。「県民会議」という名前がなくなっても、これまでの連携をさらに強め、「テクとく」でも、各団体からのイベントや情報を共有する形で、いろいろな方に参加していただく。さらに仲間を増やしていくという発展的な形にしていければと考えている。こういったつながりを今後とも活用していただけるよう、県としても「テクとく」というツールを使っていきたいと考えている。

(会長)

「県民会議」という、会自体はなくなるが、それぞれいろいろな活動をしていた取組み、活動内容は、発展的またそれぞれ別の協議会等に移行する。それぞれの団体が活動されていることに

については、県と相談して、継続できるように、そして徳島県の健康づくりの、一つの目標というところで継続、また、相談いただけたらと思う。

(6) その他

(事務局)

事務局から資料により「テクとく ウォークビズ選手権」について紹介

(会長)

そのほか、なにかご意見があれば。

(副会長)

自動販売機（たばこや缶ジュース）が店外にある。買いづらくなるようできるだけ店内に設置していただきたい。

缶コーヒーの糖分等が原因で糖尿病に近づいていく。県条例などで店内設置を促してもらいたい。

資料に芋類の食べ過ぎはだめとあったが、鳴門金時はどうなるのか。

(会長)

さつま芋の摂取量が徳島市全国一位と、新聞にでていた。やはりな、という思いがする。かなり2位と差があったような気がするが、うろ覚えで申し訳ない。

ほかになにか意見は？

(委員)

健康とくしま県民会議という名称を変更するのか？それとも会議自体がなくなるのか？

(事務局)

県民会議というそのもの、会議を廃止させていただくということで、何か別の名称でまた作るというものではない。

(事務局)

そういう会議という名称を超えて、ぜひこれまで連携してきたこの50団体を超える皆様方と、更に連携をしながら色々な事業を進めていくことができたらと考えている。協会けんぽさんからの話でもあったように、健診の受診率アップに向けては、働いている方々、関係者がそれぞれ一生懸命取り組んできたけれども、全国的に言うと非常に低いところをなんとか、と、一緒にやっていただいているところ。その結果も生かすような形でデータヘルスの事業であったり、いろいろな新たな展開ができ、その結果として医療費の適正化となれば。ぜひこの会議をやってきたことを、さらにまた次の展開に皆様と共にやっていくことができればと思うので、よろしくお願ひしたい。

(会長)

会議という形がなくなるということだが、これまで、それぞれの職場、それぞれの団体がいろいろされていたことは、すごく重要なこと。今後、健康とくしま運動をさらに推進するために、関係機関の連携、協力を、皆様の積極的な参画が不可欠ですので、これからもそれぞれの立場でも取り組みを進めていっていただきたい。

他に意見がないようであれば、事務局へお返しする。

(事務局)

以上をもって、「みんなでつくろう！健康とくしま県民会議」を終了。